

1 学期朝礼講話

おはようございます。

1 学期も 2 か月がたち、ここで折り返しとなります。先日の南稜祭文化の部はお疲れさまでした。それぞれの分野でみなさんの一生懸命な姿、様子を見るにつけ、そのエネルギーを感じた次第です。3 年生にとっては最後の文化祭であり、ダンスパフォーマンスを含めて大いに盛り上がることができましたし、これを思い出として残してほしいと思います。1 年生にとっては初めての文化祭でしたがどうだったのでしょうか。そして高校生活 2 か月が終わった段階ですが、高校生活はいかがでしょうか。こんなものなのかなと思う人もあれば、期待していた、あるいはいなかったそれぞれの感想があったかと思います。

文化祭が終わると授業中寝てしまう人はいないですか。授業中寝てばかりいたら試合や勝負事には勝てません。我慢することができなければ試合に勝つことは難しいでしょう。やはり高校生活の原点は授業にあると思います。

さて、これから高校生活をおくる中で、皆さんの良い点を挙げてみてください。本校生徒の長所なんですけど、これは地域に貢献したい、人のためになりたいというポイントが他校生徒よりかなり高いという点です。これは素晴らしいことだと思います。机上の勉強ができる以上に価値があります。この地域や人のためになりたいということで有名なものとしては、私たちが使っているお札になっている方でしょう。

千円札や 1 万円札の表紙になっている方は、昔は政治家でした。これが 40 年ほど前に文化人に代わりました。私は 20 代まで政治家のお札でしたから、聖徳太子、厩戸皇子などはよく知っています。それが大きく変わりました。すべての方を紹介するには時間がないので、今日は千円札の方を紹介します。

最初は夏目漱石でした。その次は誰だったのでしょうか。それは野口英世であり、次が北里柴三郎です。後者はいずれもお医者さんです。この方たちはどんなことをしたか知っていますか。もちろん人のために役立った方ですが。

野口英世は外国の風土病を研究した方ですが、この方は小さい時にいろりに落ちて左手に大やけどを負いました。手がくっついてしまったんですね。小学校の時にこの手を見て気の毒に思った担任が医者を紹介して治してくれたんですが、このことを野口英世は終生忘れず、やがて医者になることを目指します。ここまでお話をするとそうなんだで終わってしまうのですが、実はこの人大変な浪費家で、使い込んでしまうとんでもないところがありました。人のお金を借りて返さないという許しがたい面があったんです。私の亡き父親は商売を営んでいましたから、人のお金を借りて返さないとは何事だと、野口英世を嫌っていました。しかし野口英世はそれ以外の面では、人を救いたいと風土病の病原菌を研究し、その研究がすさまじく寝る間を惜しんでまで実験につぐ実験を重ねていたといえます。ですからノーベル賞に 3 回もノミネートされたんです。賞そのものはもらえませんでしたけど、彼の功

績は諸外国で評価されました。

その野口をアメリカに行かせてくれたのが北里柴三郎です。この人も性格はなかなかで、東京大学の医学部に入学する頭の良さはありましたが、先輩や先生に食ってかかるところがあり、間違いや誤魔化すことが許せない性格でした。卒業後外国で医学の勉強をして第1回ノーベル賞にノミネートされたくらいでしたから、なかなかの方でした。帰国後国内で研究を進めようとしたところ、東京大学の医学部から過去のいきさつもあり締め出されてしまいます。この状況を救ったのが前の1万円札の表紙の福沢諭吉です。福沢は北里のために研究所に出資して助けてくれました。

北里の考えとして医学はただ単にけがや病気になったのを治すのではなく、それ以前の予防が大事だと予防医学を唱えた方です。今日では当たり前のことですが、昔はそうでなく、そうした古い考えに立ち向かったのが北里でした。当然ながら軋轢を生んだわけです。

しかしながら彼は恩義になった福沢が亡くなった後に慶応大学の医学部創設に尽力してその学部長を務めるなどしました。また、晩年は本県の伊東に住むのですが、市民のために橋を架けたりかなりの地域貢献をしています。

二人とも性格としては難しい面もありましたが、人のために何とかしようという姿勢は同じで、このことが評価されて今日のお札の表紙になったといえるでしょう。

1学期後半、このような人のために何かするといった気持ちをもって過ごしてみてください。

以上で校長講話とします。

(令和7年6月6日、朝礼)